

【受益者の皆様へ】

2013年8月27日

野村アセットマネジメント株式会社

「野村エマージング・ソブリン 円投資型」各ファンド*の2013年6月26日以降の基準価額の動きについて

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村エマージング・ソブリン 円投資型」各ファンド*の基準価額の動きについてご案内いたします。

以下に各ファンドの基準価額、「野村エマージング・ソブリン 円投資型 マザーファンド」(以下、マザーファンド)の基準価額の推移、足元の投資環境、今後の投資環境の見通しと今後の運用方針をご報告いたします。

*各ファンドは「野村エマージング・ソブリン 円投資型 マザーファンド」をマザーファンドとするファンドです。対象ファンドは下表のとおりです。

【2013年8月26日現在の各ファンドの基準価額】

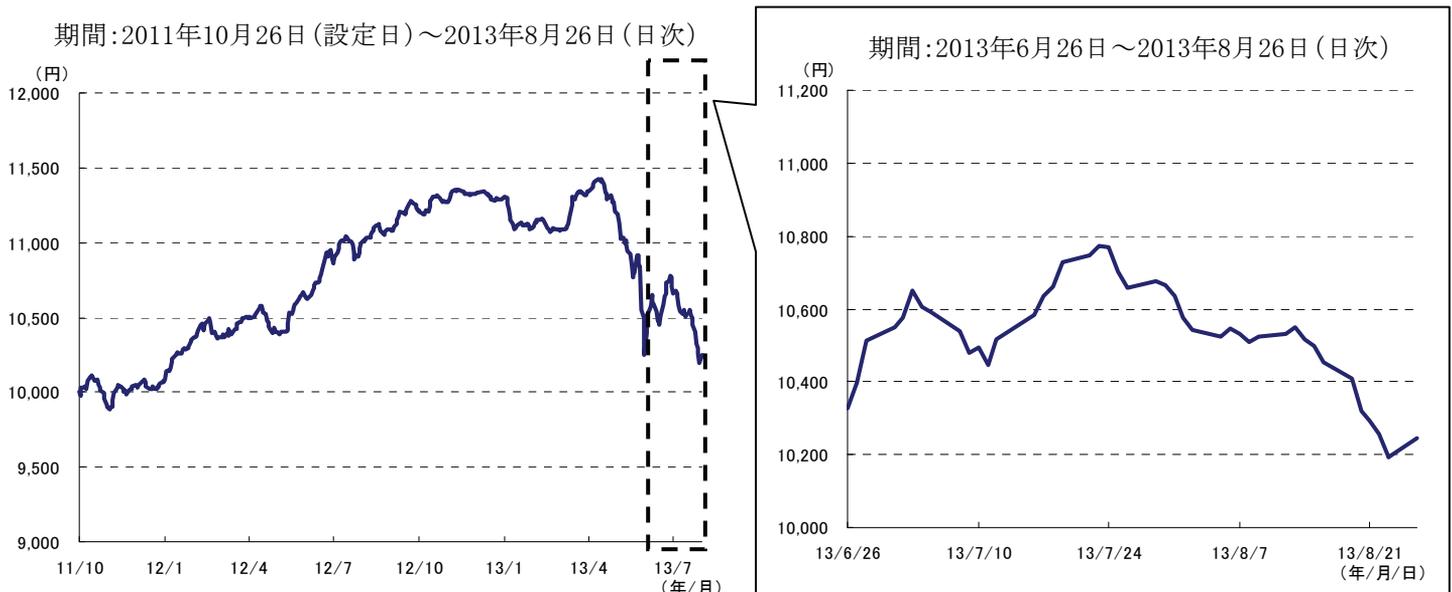
※1口当たり、課税前

各ファンド	基準価額	(ご参考) 基準価額 (分配金再投資)	(ご参考) 分配金額 (設定来累計*)	設定日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1110	9,569円	10,046円	510円	2011年10月26日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1111	9,694円	10,174円	510円	2011年11月28日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1203	9,400円	9,735円	360円	2012年3月30日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1205	9,381円	9,715円	360円	2012年5月30日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1208	8,964円	9,186円	240円	2012年8月30日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1210	8,910円	9,061円	165円	2012年10月30日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1211	8,806円	8,961円	165円	2012年11月29日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1212	8,880円	8,979円	105円	2012年12月26日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1301	8,973円	9,070円	105円	2013年1月30日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1302	9,057円	9,157円	105円	2013年2月27日
野村エマージング・ソブリン 円投資型1303	9,144円	9,202円	60円	2013年3月27日

- ・基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。
- ・分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

【マザーファンドの基準価額の推移】

マザーファンドの基準価額は設定来概ね堅調に推移してきたものの、2013年に入り、下落する局面があり、6月26日から8月26日までの期間でみると約0.8%下落しました。当該期間の基準価額下落の要因を次ページ以降でご説明いたします。



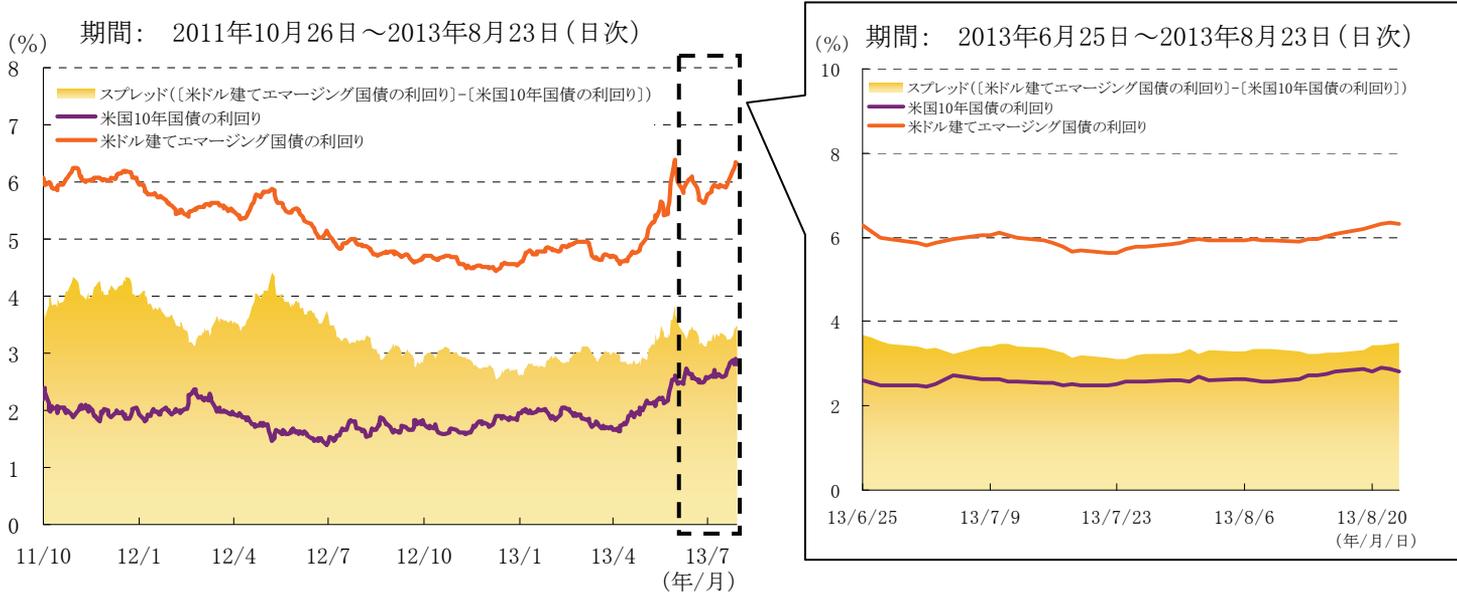
— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産への投資については、原則として為替ヘッジを行ない為替変動リスクの低減を図りますが、完全に排除することはできません。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。

【足元の投資環境】

6月下旬以降、FRB(米連邦準備制度理事会)による量的金融緩和策の早期の規模縮小への懸念が熾り続ける中、米国10年国債利回りは上昇傾向で推移しました。7月5日に発表された6月の米非農業部門雇用者数が市場予想を上回る増加となったことなどをきっかけに、米国10年国債利回りは一時2.7%台を超える水準まで上昇しました。その後は、6月の小売売上高や6月の中古住宅販売件数が市場予想を下回るなど、軟調な経済指標が発表されたことを受けて、2.5%を中心とした横ばいの推移となったものの、7月31日に発表された米国の2013年第2四半期の実質GDP成長率が市場予想を上回ったことや、季節的に金融市場全般の流動性が低下したことなどが影響し、米国債利回りは再び上昇傾向となり、足元では、米国10年債利回りは2.8%台まで上昇する結果となりました。

《米ドル建てエマーゼィング国債・米国10年国債の利回り(課税前)とスプレッドの推移》

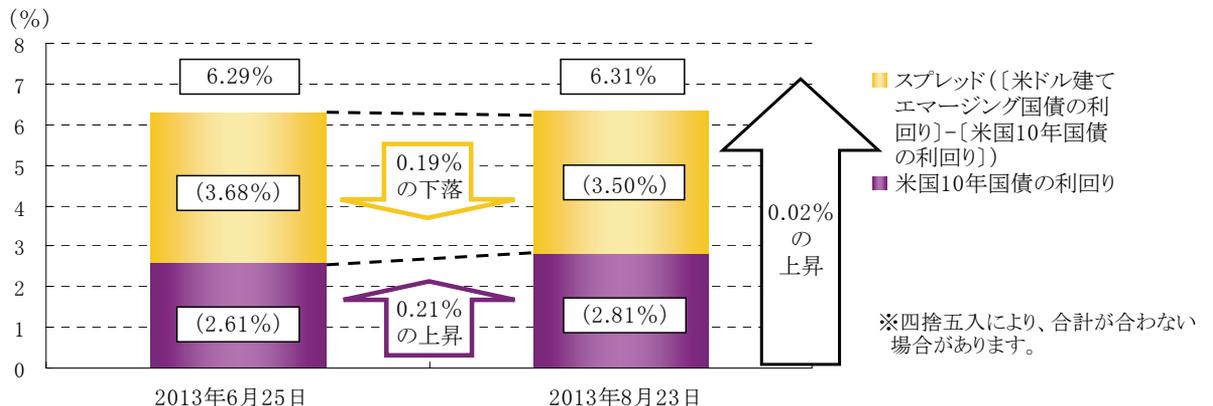


米ドル建てエマーゼィング国債:JPモルガン・エマーゼィング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル 米国10年国債:ブルームバーグ・ジェネリック10年国債 (出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

一方、米ドル建てエマーゼィング国債の米国10年国債に対するスプレッドは、6月下旬から足元にかけて縮小しました。米ドル建てエマーゼィング国債市場では、新興国経済の足元の弱さや米国の量的金融緩和策の早期の規模縮小に対する過度の懸念が後退し、米国10年国債に対するスプレッドは、6月下旬以降、縮小に転じました。8月に入り、季節的に金融市場全般の流動性が低下したことなどを背景に、市場の変動が大きくなり、米国債に対するスプレッドは拡大傾向で推移したものの、6月下旬と比較すると、スプレッドは縮小しました。

6月下旬から足元までの期間において、米ドル建てエマーゼィング国債は、米国債に対するスプレッドが縮小する一方、米国10年国債利回りが上昇したことを受けて、利回りが上昇、債券価格は下落しました。

《2013年6月25日と2013年8月23日の米ドル建てエマーゼィング国債の利回り(課税前)の変化》



米ドル建てエマーゼィング国債:JPモルガン・エマーゼィング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル 米国10年国債:ブルームバーグ・ジェネリック10年国債 (出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産への投資については、原則として為替ヘッジを行ない為替変動リスクの低減を図りますが、完全に排除することはできません。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。

【今後の投資環境の見通し】

米国では、生産や雇用を中心に堅調な経済指標が続いており、年後半に向けて景気が緩やかに回復に向かっていることが確認されています。一方で、景気の回復ペースについてはFOMC(米連邦公開市場委員会)の見通しに比べて緩やかなものになること、インフレ率は長期にわたって安定した推移となることを想定しており、政策金利が引き上げられる可能性が低い状況に変わりはない、と考えております。米国10年国債利回りは、政策金利引き上げ時期が前倒しされる可能性を市場が織り込む形で不安定な動きとなっているものの、更なる利回り上昇の可能性は低く、2%後半の水準で徐々に落ち着いた動きを取り戻していくと考えております。

一方で、新興国各国では、足元の経済状況はやや力強さに欠けるものの、米国が緩やかに景気回復に向かう中で、新興国各国の景気も、年後半に向けて徐々に持ち直していくと思われれます。また、新興国各国の中長期的な信用力は引き続き改善していく方向に変わりはないと考えております。このような環境下で、米ドル建てエマージング国債の対米国10年国債スプレッドは、新興国経済の回復とともに再び安定した動きを取り戻すと思われることから、米ドル建てエマージング国債の値動きは、米国債利回りの動きが落ち着いていく中で、一定水準で安定した動きとなっていくと考えております。

《米国の政策金利と米国10年国債の利回り(課税前)の推移》
期間:2007年12月～2013年8月※(月末値) ※2013年8月については、8月23日のデータとなります。



米国の政策金利:FF金利の誘導目標(2008年12月16日以降のFF金利の誘導目標は0~0.25%ですが、グラフ上(2008年12月末以降)では0.25%としています。)
米国10年国債:ブルームバーグ・ジェネリック10年国債
(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【今後の運用方針】

今後、米国において、量的金融緩和策の規模が早期に縮小されることや政策金利が当面変更される可能性は低いと想定していることから、米国10年国債利回りは徐々に安定した動きを取り戻すと考えており、ファンドのデュレーションについては、基本、現状の水準を維持することを想定しております。

*デュレーションは、金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標です。

マザーファンドが投資する8カ国については、中長期的にファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)が良好な国々であると考えており、引き続き投資を行なっております。

今後につきましても、これまでの方針通り、信用力、為替ヘッジ後の利回り水準や投資環境等を勘案して選定した新興国の米ドル建て債券への投資を継続して参ります。

今後とも「野村エマージング・ソブリン 円投資型」各ファンドをご愛顧賜りますよう宜しくお願いいたします。

以上

《当資料で使用した市場指数について》

- JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル(JP Morgan Emerging Market Bond Index Global)は、J.P.Morgan Securities LLCが公表しているエマージング・マーケット国債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産への投資については、原則として為替ヘッジを行ない為替変動リスクの低減を図りますが、完全に排除することはできません。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。